

## 海外農林業情報 No. 98

## 目次

## 【世界の食料需給の動向】

ゴマの価格が急上昇……………	1
米国農務省の農産物需給見通し……………	2

## 【世界の食料需給の動向】ゴマの価格が急上昇

世界のゴマの価格が上昇しています。5月21日付の日経記事によると、例えばアフリカ産搾油用ゴマが15万3000円/トン程度となり、前年と比較して2割上昇しました。同様にアジア産食用ゴマも高騰しています。価格上昇の原因は、主要産地であるアフリカ各国での不作懸念が広がっていることと、輸入国でもあり生産国でもある中国やインドで国内需要が供給を超えて輸入拡大が起きているためとされています。

具体的な事例を紹介したいと思います。2018年にJAICAFは農林水産省補助事業の一環で、日本にとって有数のゴマ生産国であるミャンマーで現地調査を行いました。日本は、ゴマをほぼ全量輸入に頼っていますが、特に黒ゴマについては、その8割をミャンマー産が占めているとされています。

調査はちょうどモンスーンゴマの収穫時期であり、2017年の実際の買取価格と、推定される2018年の買取価格についての情報をゴマ農家から得ることができました。その結果、2017年の黒ゴマの買取価格は40000 Kyat/バスケット程度（およそ115円/kg）でしたが、2018年の推定買取価格は70000 Kyat/バスケット程度（およそ200円/kg）まで上昇していました。これは、プレモンスーンゴマの生産が天候不順で悪化し、供給不足に陥ったことと、中国系エージェント（流通業者）が台頭してきており、彼らが大量に買い付けるために価格が上昇したことによるといわれています。

近年、ミャンマーでは中国系エージェントが南下してきています。本調査の対象地であるアウンランはヤンゴンからは北北西に約300km、マンダレーから南南西に約300kmのエーヤワディー川沿いに位置しており（図1）、これまでマンダレー周辺までしか手を伸ばしていなかった中国系エージェントが、近年の中国国内のゴマ需要拡大を受けて、南下してきたとみられます。アウンラン周辺の黒ゴマは日本に輸出されることが多かったのですが、南下した中国系エージェントがゴマの品質を考えずに手当たり次第に高値で買い取っていく状況となり、日本に輸出される量が減少しています。また、品質が低下傾向にあ



図1 アウンラン、ヤンゴン、マンダレーの位置関係

ることも否めません。調査では、このまま中国系エージェントの台頭が続けば、アウンラン周辺の黒ゴマは買い占められ、全て中国へ輸出される結果になる可能性が懸念されました。

JAICAF では農林水産省補助事業を通じて、現地のゴマ農家を支援してゴマの高品質化を行っています。当時の調査（2018年度）では、ゴマの品質基準の1つである酸価値の上昇を抑える収穫後処理技術の普及を行いました。農林水産省補助事業としての活動は2019年度も引き続き実施しており、現在は残留農薬のリスクを低下させるための適切な農薬施用と害虫防除の技術の普及を目指しています。実は現地の農家にとって、ゴマは生産も価格も安定しないギャンブルのような作物と認識されていますが、ゴマの品質が向上して高品質ゴマが安定して生産できるようになれば、農家の安定収入につながります。また、日本へのゴマの輸出も増えると期待されます。将来的には日本の食料供給の安定化につながるとみられます。

<参考リンク>

ゴマ3年ぶり高値 アフリカ産2割高、不作の懸念（日本経済新聞、5月21日）

<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO45019530Q9A520C1QM8000/>

平成30年度アジア・アフリカ地域の農業者に対する 農業生産技術指導（ミャンマー） 事業報告書

<http://www.jaicaf.or.jp/ttnews/141/detail/article/1205.html>

（文責：西野 俊一郎）

## 米国農務省の農産物需給見通し

米国農務省は6月11日付で、世界の農産物の需給見通しを発表しました。米国では悪天候のためトウモロコシの作付けが遅れており、5月下旬には一時、トウモロコシの国際価格が上昇しました。しかし6月上旬には、トランプ大統領がメキシコからの輸入品に関税を課すと表明したことで、メキシコ向けの輸出が鈍るとの懸念から価格が下落し、その後の動きが注目されていました。トウモロコシを含む各穀物の概要は次の通りとなっています。

### 小麦

2019/20年の世界の小麦生産量は、天候に恵まれているロシア、ウクライナ等で前月から上方修正され、全体として7億8083万トン（対前年度比6.7%増）と見込まれています。また、米国でトウモロコシの減産が小麦の飼料向け代替需要を押し上げたことで、世界全体の小麦消費量は7億6306万トンに上方修正されました（対前年度比3.7%増）。しかしながら、供給増が消費増を上回っているため、期末在庫は前月より上方修正され、2億9434万トン（対前年度比6.4%増）と予想されています。

### トウモロコシ

米国では、主産地の中西部で悪天候により作付けが大幅に遅れていることから、生産量は2015/16年度以来の低水準となる3億4749万トン（前月比3429万トン減）と予想されています。供給が落ち込むことで飼料利用と輸出も減少が見込まれますが、供給減がこれを上回ることから、期末在庫は2013/14年度以来の低水準となる4256万トン（前月比2057万トン減）と予想されています。

世界のトウモロコシ生産量は、米国やカナダでの減産見込みにより、前月比 3460 万トン減の 10 億 9919 万トンと予想されています（前年度比 1.9%減）。消費量が前年並みであることから、期末在庫は前年比 10.7%減の 2 億 9052 万トンに落ち込むと見込まれています。

米国の減産見通しを受けて、シカゴ先物市場ではトウモロコシの国際価格が 6 月 11 日に大幅高となり、その後も高値で推移しています。

## コメ

世界のコメ生産量は、マダガスカル、エジプト、EUで前月より上方修正された一方、米国、北朝鮮、タイで下方修正があり、前年度比 0.3%減の 4 億 9762 万トンと予想されています。消費量は、マダガスカル、バングラデシュ、ミャンマー、エジプトで上方修正があった一方、中国、北朝鮮、米国で下方修正があり、世界全体では前月よりわずかに減少して 4 億 9595 トン（前年度比 1.0%増）と予想されています。期末在庫は前月より下方修正されたものの、生産が消費を上回るため、世界全体では 1 億 7187 万トンと、記録的な水準を維持しています。

## 大豆

米国では悪天候により大豆の作付けが遅れていますが、作付け可能な期間を数週間残した現時点の報告では、とりあえず作付面積と生産量は前月と変わらない水準としています。

世界全体の生産量は、ブラジルで豊作となっている一方、米国の減産やウクライナ、ザンビア、アルゼンチンでの下方修正により、前月比 30 万トン減の 3 億 5539 万トン（前年度比 1.8%減）と見込まれています。

なお、米国農務省は 6 月 28 日に、最終確定作付面積の発表を予定しています。特に作付けが遅れているトウモロコシと大豆の動きについて、今後、農務省の発表や米国の貿易政策の動向が注目されます。

## <参考リンク>

World Agricultural Supply and Demand Estimates (USDA、6/11 付)

<https://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

トウモロコシ国際価格が下落、メキシコ需要の鈍化懸念（日本経済新聞、6/3 付）

<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO45619380T00C19A6EN2000/>

トウモロコシ大幅高 国際価格（日本経済新聞、6/12 付）

<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO46006180S9A610C1QM8000/>

（文責：森 麻衣子）

---

本情報のメール配信をご希望の方は、件名に『海外農林業情報配信希望』と記入した空（から）メールを下記までお送り下さい。ご意見、ご感想もお待ちしております。 E-mail アドレス：[deskb@jaicaf.or.jp](mailto:deskb@jaicaf.or.jp)  
メールを送付された方には、確認メールをお送りします。送信後 2 週間以内に届かない場合は、お手数ですが 03-5772-7880（担当：森・西野）までお電話下さいますようお願い申し上げます。なお、メール配信をご希望の方には、本ミニ情報のほか、セミナーのご案内等、当協会からのお知らせが届くことがありますので、併せてご了承下さい。

**発行：（公社）国際農林業協働協会 (JAICAF)**

**〒107-0052 東京都港区赤坂 8 丁目 10-39 赤坂 KSA ビル 3 階**